

平成28年度第3回沼田市市民構想会議（会議概要）

- 1 日 時 平成28年11月28日（月）午後2時から午後3時23分
- 2 場 所 沼田市役所 北庁舎 第二・第三会議室
- 3 出席者 委員15名（欠席21名）
アドバイザー篠田 暢之氏
沼田市 副市長、総務部長、市民部長、健康福祉部長、
都市建設部長、議会事務局長、教育部長
（事務局：企画課長、企画係長）

4 会議内容

（1）開 会（事務局）

（2）あいさつ

会 長： この会議のまとめが近づいているが、良いものをまとめたいので、ご協力をお願いしたい。

（3）前回の会議結果の概要について

事務局： ***<「第2回沼田市市民構想会議（会議概要）」により説明>***

会 長： 事務局から報告があったが、皆さまからご意見・ご質問があればお願いしたい。

特になければ次へ進ませていただく。

（4）議 題（進行：会長）

（1）提言に向けたご意見の取りまとめについて

会 長： それでは議題に入らせていただく。

次第により議題（1）提言に向けたご意見の取りまとめについて事務局から説明願いたい。

事務局： ****<概要説明> ****

会 長： 委員の皆さまから、ご意見やご質問があればお願いしたい。

委 員： 会議に出ささせていただいて分野別に分れて議論をしたが、結局、前に出された意見の繰り返しで堂々巡りの議論になっていた。抜け出すにはどうしたら良いのか、出来るところから具体的に組み組んでみる、頭の中の考えと、実際にやってみると違っているか、これで良いのかが、出てくるので、会議でひとつに組み組んでみることも方法ではないか。

委 員： 富山県の合掌集落を視察に行ったが、たくさんの観光客が来ていて、おばあちゃんはお土産屋や食堂で働いて、おじいちゃんも道路と駐車場の交通整理をしていた。若い人が働いている姿も見えた。かつては養蚕が主力産業であったが、現在は観光が主力でとても賑わっていた。

自分たちのことは後回しにしても訪れてくれる人たちを大切にしようというのも片手落ちのような気がする。外から人が沢山来てくれるのでそれだけで幸せとはいえない色々な問題もあるようだ。まちを維持するということは、100%良いことばかりではなく、どこかで割り切ってやっていくということも必要ではないか。

会 長： 他にご意見、ご質問があればお願いしたい。

無いようですので、次にご意見をご提出いただいた2名の委員さんと、
住みたくなるまちづくり委員会からの説明をお願いしたい。

意見提出委員： 今、我々が危機感を持たなければいけないことは人口減少だと思う。
目標はひとつに絞って、それに必要なことをやっていくということが大事
である。

地域が自分たちで、地域のことで努力して皆で色々と工夫して地域が良
くなったことで、予算的なご褒美がもらえるなどの支援ができないか。コ
ミュニティも今よりも活性化して、地域の活性化は沼田市の活性化につな
がる。地域の活動へのインセンティブ（行動を促す動機付け）をやっても
らえば、地域も元気が出てくる。

会 長： 只今の説明について、皆さんからのご意見、ご質問があればお願いした
い。

特にないようなので、次の意見提出委員からご説明をお願いしたい。

意見提出委員： 沼田市の将来をどう考えるのか、どうしたら良いかという議論は前
からずっとやっている。総合計画などの計画があって、そういう話を飛び
越えたアイデアが出れば良いが全体で議論した中では出てこないだろう
と感じている。

であれば総合計画とかで、何が上手くいって、課題になっていたのかを
共通認識としてベースとして捉えていた方が良いということで意見を出さ
せていただいたが、そういう議論に進まなかった。

3つに分かれた分科会の提案項目は項目的に言うと総合計画や色々な計
画にあるものである。既存の計画の中であまり触れられていないことがふ
たつあった。

ひとつはその方針をどうやって具体的に実現するかという具体策、具体
的な方針についてほとんど触れられていなかった。仮にこの構想会議で話
をしたとしても、どう沼田市のために実現できるかというところが、不十
分という不安がある。

もうひとつは、何でこういう計画をつくったのかということをも市民の皆
さんに分っていただくことが必要だ。市としてこういう社会をつくるため
に、こういう施策が必要であるかを分ってもらえるようなやり方というの
があまり触れられていない。

共通認識として皆さんには分ってもらうためには、何が上手くいかなく
て、何が課題であったのか、或いは何が上手くいきそうだということをあ
る程度この中の共通認識として考えたらどうかという思いでいる。

会 長： 只今の説明について、委員の皆さんからご意見やご質疑があればお願い
したい。

特になければ、前回、副会長から若干説明があったが、住みたくなるま
ちづくり委員会の委員長に説明いただきたい。

住みたくなるまちづくり委員会委員長： 委員会でのコンセプトは『童（わらべ）の

まち沼田』がスローガン。いままでも子育て世代を中心にとすることはあったと思うが、『童（わらべ）のまち沼田』と謳って、視点を子ども、或いは子育て世代からの視点で、観光・産業等を考えてはという提案になっている。

一番の課題として、子どもの居場所がない、安全・安心に遊べる場所、安全・安心で友達と会える場所がないということが話し合われた。子どもが安心・安全に遊べる場所、学べる場所を提供して欲しいというのが、本委員会の一番の提案である。

主な柱として掲げているのが2つで、就学前未就学の子どもたちが安全に遊べる場所、沼田市にはこれほどの規模の市であるのに児童館がない。各幼稚園とか、保育園とかが提供する場所に週1回或いは週2回行っている親子がとても多い。市の保健センターに2～3年前にできたが、狭いところに、10組の親子がギュウギュウになって小さなおもちゃで遊んでいる。ほかに保健センターで「わいわいクラブ」といって金曜日に週1回、広いところで遊んでいたが、改修工事で狭い倉内町の公民館に追いやられてしまった。

狭くて駐車場がなく行くのを止めたという親子を私はたくさん知っている。実は私もその1人である。「わいわいクラブ」はすごく有難い場所だったのに、子育て世代に対する軽視から追いやられてしまった。勿論、期間限定であるので4月からは新しい広い場所で遊べると思うが、狭いところに追いやられてしまった現状を考えても、もう少し子どもたちが安全・安心に遊べる場所の提供を本格的に考えていただきたいと思っている。具体的な提案として「ボーネルンド」を誘致するというのを提案したい。

「ボーネルンド」は、企業と市で提携して行うということで、グリーンベル等広い場所を確保して、「ボーネルンド」であると、おそらく沼田市内だけではなく、利根・沼田、渋川、前橋の方まで含めて、集客力が見込める。

もうひとつは、主に小学生の遊び場、勉強に不安を感じている子どもに対しての学習補助の場としてのスクールの開設、放課後・長期休業中の学校開放等を考えていただきたいというのが、本委員会からの提案である。

会 長： 委員の皆さんからご意見やご質疑があればお願いしたい。

特になければ先ほど事前にご意見をご提出いただいた2名の委員からの報告、前回ご説明いただいた各委員会からの報告、また、篠田先生からのアドバイスを踏まえて、市民構想会議としてどうこれらを整理し、市長に対して報告していくのか協議したい。ご意見があればお願いしたい。

委 員： 住みたくなるまちづくり委員会から発表されていた『童（わらべ）のまち沼田』というコンセプトでひとつにまとめることで分りやすくなる。こういったまとめ方をするのもひとつの方法だと思っている。いま沼田で困っていることはそう多くなく、人口が減って困ると言われているが、川場村ほどには困っていない。だからひとつに絞れと言われると、迷ってしま

う。

Uターンしてきた若い人が、沼田は良いところだと言っていた。自然が多くて、新幹線や高速道路などの交通機関も整っていて、無いものも多くはないということ。そうすると市民に危機感がなくて視点がぼやける。産業はどうかといっても、失業している人も少なく本当に困っている人は少ないということ踏まえると、沼田は良いまちなんだと思っている。

高山の例を考えれば、周囲が山で閉鎖された社会で、合掌造りしかないから合掌造りという方向性が決まったと思われる。川場村も同じで何も無いところで、最初に始めたのが米で、取りあえず米を集めて売ろうという話から始まって、それがブランド化とに発展したと聞いている。

例えば『童（わらべ）のまち沼田』を始めるにあたって、責任論になったとき、言い始めた人が責任を持つことになるので、中心になって働いていかなければならない。そこに行政が支援するというかたちになってくると思う。始めるのは市民が始めなければならぬと考えているが、責任を持つと言われると困っていないのでやめてしまう人が多い。まとめ方としたら『童（わらべ）のまち沼田』というコンセプトを出して、それに付随するものというかたちでまとめた方が分かりやすいと思う。

副会長： まとめにあたって住みたくなるまちづくり委員会委員長とも相談しており、この中には問題の提起があって解決も書いてある。これを認証いただき、任せていただけるのであれば責任を持つ進める覚悟はできている。実際にポーネルドとも交渉をしていて何とかなるという実感がある。活動を進めていく中には、皆さんの夢や思いがこの中に集約されている。まず、童（わらべ）のまちとして、“林柳波”や“宮川ひろ”を中心として、まちを盛り立てながら、ポーネルドを誘致するというのも十分提案としては価値がある。ポーネルドの問題はやはりお金がかかること。2～3千万円を用意しろと言われても不可能なので、まずコンセプトを決めていただいて、童（わらべ）のまちとしてどうしたら良いのかから取りかかっていければと思う。

まず、林柳波の柳波賞を単に表彰するのではなく、童謡コンクールのようにして、各地域から自分たちが作詞して作詞分野、歌唱分野とか、パフォーマンス分野とか色々な方法ができると思う。それによって、柳波まつりと絡めて童謡コンクール・フェスティバルのようなものを企画して人を集め、童（わらべ）のまちとして、活性化していく。

委員会では皆さんが意見を出し合ってきているので、集約していただければメンバーは揃っている。『童（わらべ）のまち沼田』を委員会として頑張りたいと考えているので、皆さんにご賛同していただければ受けて立つ気持ちはある。

委員： まとめ方という話だが、子育てとして安心して暮らせるまちということも要素として必要なことだが、市民構想会議として何を目指すかのかという、もう少し大きなテーマがあると良いのかなという気がしている。

一番大事なことは、市民が全て幸せに、楽しく暮らせるという太い軸がある。子育て、コミュニティ再建、健康、観光、移住、雇用などの分野ごとの軸が合流してきて、市民構想会議でもそういう分科会の様なかたちで、その人たちが中心となって、委員会だけでなく一緒に考えてくれる人を集めたり、意見を広げて、その中で具体的な取り組みをそれぞれに考えていくことで、個々の分野に分れて行ったりして、具体的にしていこうというようにしたら良いと漠然と感じた。

会 長： 私案であるが、3つの委員会の経過、本日お二人の委員さんからの要望事項、会長と副会長が責任をもって確認するので、内容をまとめて、次回の参考資料としたいと考えているがどうか。まとめをこちらにらせていただいて、次回それを基に、皆さんからご意見をいただいた方が、意見を出しやすいと思うがいかがか。

委 員 異議はないが、私の意見の中で、だいぶ前から森林文化都市ということをやっているので、キーワードというか、謳い文句として表に出してはどうか。環境を活用した地元事業と若者を提携するまちづくりというイメージをここに足したら良い。若者が出来るだけ地元で働けるようなこと、環境（森林文化都市）プラス α ということも考えてみたので、是非参考にさせていただきたいと考えている。

委 員： 目標を立てるのであれば、具体的に示すべきであり、その目標を達成するための方策、手順も具体的に示すべき。最後に不足があれば付け加えていけば良い。最初から抽象的だと話がぼやけてしまうので、できるだけ具体的にまとめてもらいたい。

会 長： 何もないと皆さんも意見を出せないのではないか、何か土台になるものがあつた方が意見が出しやすいのではと考えて進言させていただいているので、会長、副会長、事務局にお任せいただければ次回皆さんにお示ししたいと考えている。

皆さんが意見を出しやすいように事前にお配りして、次の会議に臨みたいと思うが宜しいか。

ご承諾いただいたのでそのように進めさせていただく。

(2)その他

事務局： (事務局から、①次回の会議で総合戦略の成果を評価していただくこと、②次回の会議は1月下旬で日程を調整することを説明)

会 長： 以上でこの会議を閉じさせていただく。